

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2014.1

vol.93

新年明けまして おめでとうございます。



昨年も多くの皆様にご支援、ご協力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

全国的に記録的な長期の猛暑が続いたかと思うと、急速に気温が低下、寒い冬を迎えました。また異常気象による災害も多発した年でした。一方、2020年の東京オリンピック招致、富士山の世界文化遺産決定等のニュースもありました。参院選での自公民過半数獲得により国会のねじれ状態が解消、決められる政治が期待されました。しかし、東日本大震災や福島原発事故の回復スピードは期待されたほどは進んでいないようです。平成26年度の診療報酬改定も消費税8%を考えると喜べない結果となりました。

山下前院長、中重看護部長の定年退官後、院長花田のもと皆越副院長、今村統括診療部長、城ヶ崎臨床研究部長、木村事務部長、上別府看護部長の体制で運営にあたり、歯科口腔外科、腫瘍内科、救急科など新しい診療科も立ち上がりました。急性期病院では、在院日数の短縮が求められ、当院でも15-16日台で推移するようになりました。急速な高齢化を迎え、ご紹介いただく患者さんも主病以外の合併症もみられます。入院期間は今後さらに短縮することが予想されますが、この期間に十分な医療を実施、紹介元の医療機関にお帰りいただくためには、現在の診療科のさらなる充実とともに、新規診療科の開設も考えなければなりません。院長就任のご挨拶でも記しましたが、築33年を越えた東病棟（当院の主病棟）や外来・医局を含めた管理棟の老朽化、狭隘化が目立つようになり、思うに任せない状況にあります。将来の建替えと同時に、今後鹿児島医療センターは地域医療の中で救急医療を含めどのような医療を推進していくべきか考える時期となっています。鹿児島県保健医療計画の中でも、鹿児島大学病院、鹿児島市立病院に次ぐ第3の高機能病院の整備が謳われています。6月に鹿児島大学から熊本病院長、鹿児島県医師会から池田会長、鹿児島市医師会から鹿島会長次いで猪鹿倉会長、鹿児島県から松田保健福祉部長、国立病院機構から田中指宿医療センター院長のほか法律家、マスコミOB、市民代表など3名の方に参加いただき鹿児島医療センター運営協議会を立ち上げ、地域連携を含め当院の将来はどうあるべきかご検討いただいています。また、院内でも将来構想委員会（委員長 藺田循環器内科部長）を立ち上げ、病院見学等も含め話し合いを開始しています。

10月には第2回地域医療連携懇談会を開催し、第1回以上に多くの方々にご参加いただきました。本年も緩和ケア研修会、循環器市民講座、脳卒中市民講座を予定していますが、癌に関しても市民公開講座をスタートすべく準備中です。また看護部門でも地域に開かれた研修会を多く企画しています。今後ともこのような機会を増やし、地域連携を進めていきたいと思っています。

職員一同、循環器、脳卒中、がんの基幹病院を目指して努力して参ります。今後ともご支援、ご鞭撻どうぞよろしくお願いいたします。

院長：花田 修一

幹部年賀状



副院長
皆越 眞一

明けましておめでとうございます。いつになく静かな正月でした。

さて、2014年です。クマモンが大活躍している熊本県ですが、その人口は鹿児島県と同じくらいにもかかわらず、その医療は公的病院の数やベッド数が多く、他の中規模病院や小規模病院との連携もしっかり確立されているように思えます。流体力学(ドプラエコー)にたとえますと、熊本県では大きなベクトルを持つ公的病院と小さなベクトルを持つ私的病院が一定の方向性を保ち、整然とした層流(正常血流)を形成しているのに対し、鹿児島県では公的病院の規模もベッド数も少なく、小さなベクトル同士がさまざまな方向を向いて動いている乱流(病的血流)の状態にあると言えます。もちろん、鹿児島県は多くの離島を抱え、ライフラインは600kmにも達し(他には東京都と北海道だけです)、ドクヘリ基地も鹿児島市だけではカバーできないという地政学的事情もあります。一方、利点としては、熊本県にはない県立病院群や徳洲会病院があります。大学、県庁、医師会、公的病院群、市民など多方面の力が結集されることを期待しますが、そのような中、当院も公的病院としての役割を果たすべく各領域同士力を合わせ様々な課題を乗り越えて行く時であると思います。

本年もよろしくお願い申し上げます。



統括診療部長
今村 純一

新年のお祝いを申し上げます。

昨年は病院の運営に御協力頂きまして有り難うございます。今年は将来構想に向けて更に一步を進めなければなりません。いくつかの課題があるかと思えます。これまで循環器疾患 脳卒中がん 診療を三大柱にして参りましたが、更に地域医療の刷新のためにも高機能化を図ることが当院の目標になって参りました。そのためには救急医療や総合診療の分野での充実が必要と思われれます。設備やスタッフの面でのマネジメントを軌道に乗せることを図っていきます。地域の関連病院の皆様の御協力を頂かないとこれも立ち行かないこととなります。宜しく願い申し上げます。

統括診療部長になりまして未だに十分な貢献が出来ていないと感じる今日この頃です。医療経営の分野でも良好な運営状況にあるとは言えませんが遅まきながら医療経営をサイエンスとして捉え直し、どのように問題解決を図るかを考えていきたいと思えます。関連病院の皆様のお役に立てるように、また職員皆様が楽しく仕事の出来るようにお手伝いできればと願っております。今年も宜しく申し上げます。



臨床研究部長
城ヶ崎 倫久

新年あけましておめでとうございます。

昨年は自民党の経済政策である三本の矢、特に金融緩和が功を奏し、アベノミクスと呼ばれる株高円安を引き起こしました。景気が良くなった感がありますが、今年4月に控えた5%から8%への消費税増税がブレーキをかけるのではないかと心配です。巷では、東京にオリンピックを招致した”おもてなし”スピーチや半沢直樹の”倍がえし、100倍返し”などの言葉が流行りましたが、今の日本に、ひいては私自身にも”やられたらやり返す”と言うだけの根性と気迫と執念があるでしょうか。

さて、当院臨床研究部は生理活性物質制御学講座として鹿児島大学大学院の連携大学院になっていますが、昨年は客員研究員として研究していた時任紀明先生が「Cardiotrophin-1 induces matrix metalloproteinase-1 in human aortic endothelial cells.」という題名で医学博士を取得しました。おめでとうございます。また、先輩医師として、当院で研究をして博士号を取った市来智子先生は、現在アメリカ合衆国のメイヨークリニックに留学して多額のグラントを獲得することができ、日の出の勢いで研究しています。当院からアメリカに送り出した立場として嬉しく思っています。さらには今年4月からは臨床研究部に大学院生が2人入ってきて研究を始める予定になっています。マンパワーが充実すれば色々な研究ができる可能性があり、今からワクワクしています。今年もよろしくお願い申し上げます。



メディカルサポート
センター長 兼
地域医療連携室室長

藺田 正浩

新年明けましておめでとうございます。

今年は少子・高齢化が進む中で、医療界の在り方が問われる年になると予想されます。当院も、今後の長期展望及び鹿児島島の医療に貢献するためにどうあるべきかを、職員全員で早急に考えていきたいと思っております。

メディカルサポートセンターは患者さんに効率的で満足のいく医療を提供するために、地域医療連携室（医療福祉相談、転院・退院相談）、入院支援（入院時早期ケア・相談）、がん相談支援の三本柱で運営しております。今年も連携室便り『鹿児島医セン』にて、院外向け研修会の開催、病院紹介、各病棟紹介、各部門紹介、新しい治療、ひとくちメモなどの記事を毎月紹介していきたいと思っております。

昨年10月3日の第2回地域医療連携懇談会では、貴重なご意見やご支援をいただきありがとうございました。今後も、病診連携や地域連携を密にするため、皆様のお力を貸していただきたくお願い申し上げます。

今年度も、“顔の見える連携室”を目指していく方針ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長

木村 喜美生

新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より医療連携頂いております先生方におかれましては、患者様を多数ご紹介又はお引き受け頂き感謝致しております。

2013年は、当院におきましては病院機能評価受審・認定、CT更新（2台体制）を含む医療機器更新・整備等を行い、更なる地域医療発展のため診療機能の充実を随時図ってきているところであります。地域医療連携につきましては「メディカルサポートセンター」を中心としまして、より身近な病・病連携、病・診連携に向けて鋭意努力しておりますので、今後とも先生方の忌憚のないご意見・ご要望等をお願い致します。

2014年におきましても、診療機能、医療の質、患者サービス、並びに職員意識の向上等を高めるための努力をし、更に「病院将来構想等」に向け一歩ずつ前進させていく予定しております。この他、病院発展のため本年も病院全体としましても種々計画しておりますが、事務部門は引き続き職員一丸となって目標達成へ向けて努力して行きたいと考えております。

本年もどうぞ宜しくお願いします。



看護部長

上別府 昌子

謹んで新年のご挨拶申し上げます。

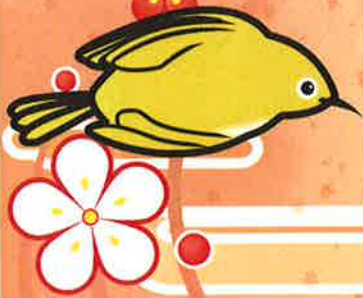
皆様におかれましては、それぞれの思いでこの「午年」を迎えられたことと存じます。昨年中は何かのご支援、ご協力をいただきましてありがとうございました。

昨年は、当院が発展・充実していくために「将来構想」を考え、検討していくスタートの年でした。その基盤づくりを継続して、さらに発展させていくのが今年だと考えております。まず、がん相談支援・入院支援・地域医療連携室等の機能を統合した「メディカルサポートセンター」もますます充実してきました。今後も医療スタッフの協働で、努力して参ります。また、病院運営方針の一つに「質の高い医療従事者の育成」があります。循環器病・脳卒中・がんを専門とする役割として、専門的知識やその看護教育を院外へ発信して公開講座を実施しております。年々希望施設が増えていますので、ご期待に添える教育プログラムと同時に、私たち鹿児島医療センターの看護部も努力していく所存です。

9月26・27日には「日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会」が鹿児島で開催されます。多くの方々の参加と様々な分野での発表のご協力をお願い致します。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

がん薬物療法の副作用対策に関する研修会のご案内



- 日 時：平成26年2月12日(水) 18:00~19:00
- 場 所：鹿児島医療センター大会議室
- 研修会名：平成25年度がん診療連携拠点病院研修
「がん薬物療法の副作用対策—fromAtoZ—」
講師：鹿児島医療センター腫瘍内科部長 魚住 公治
- 対 象 者：医師・看護師・コメディカル等
- 会 費：無料

※参加ご希望の方は2月6日(木)までに
企画課 竹田津 までご連絡下さい。
院外の方のご参加をお待ちしています。

【電話】099-223-1151 【FAX】099-226-9246

放射線治療装置 (リニアック) 再稼働のお知らせ

当院では昨年9月より放射線治療装置(リニアック)の更新工事を施工してまいりましたが、平成26年3月3日(月)より放射線治療が再稼働予定となりましたのでお知らせ致します。

工事期間中は大変ご迷惑をお掛けしましたが、今度ともよろしくお願い致します。

院長：花田 修一

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蘭田・四丸・永重・重吉・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

